

研究のまとめ 特別支援教育在籍学級部

授業の質的な改善を目指し、個々の実態に応じた課題設定、授業作りに重点を置く。
発達検査、個別知能検査の実施

< 成 果 >

- ・ 諸検査実施に先立ち、特支担任でWISCの実技研修を実施したことにより、諸検査の分析がより容易になり、スムーズな実態把握につながった。
- ・ 実態に応じて、津守式発達検査、田中ビネー、WISCなどの諸検査を実施し、参考資料として蓄積することができた。
- ・ 諸検査の結果から、在籍児童8名は大きく3段階の課題別集団に分かれるが、さらに個別の課題設定（個別の指導計画）が必要であることを確認できた。

< 課 題 >

- ・ 計画的に検査を実施していけるよう、年間計画の中に位置づける。～「資料3」～
- ・ 検査実施に当たっては、他児童の補欠授業も計画しながら、特支担任間で協力体制を組んでいく必要がある。
- ・ 検査結果の活用について。（ケーススタディを通して児童理解に努めるなど。）

個別の指導計画の作成

～「資料1」参照～

< 成 果 >

- ・ 「個別指導計画」の形式や項目を検討しながら作成することにより、個別の課題、長期的な見通しが明らかになってきた。
- ・ 実態に応じた個別の課題を設定するにあたって、「保護者の願い」を聞き取る機会を設定することができた。
- ・ 次年度の引き継ぎ資料として蓄積することができた。

< 課 題 >

- ・ 個別の指導計画を活用した授業実践の積み重ね。
- ・ 「個別の指導計画」の形式、項目を見直しながら、さらにより良いものを目指す。
- ・ 特支学級在籍児童だけではなく、特別な支援を要する児童の個別の指導計画の在り方についても今後検討を要する。

授業実践

～「資料2」参照～

< 成 果 >

- ・ 特支学級合同「校外学習」について、年間配当表を作成しながら指導の系統性について検討することができた。（含事前、事後指導）
- ・ 合同の学習の中で、集団作りや児童同士の学び合いが図られ、児童の学習参加への興味・関心を高めることができた。
- ・ 「特支学級校外学習」のファイルを作成することで、今後計画的に実践していくための資料の蓄積をすることができた。
- ・ 授業実践の中で、「個別の課題」を意識しながら指導の手立てを工夫することができた。（指導案の中に「個別の課題」を盛り込んだ。）
- ・ 特支学級担任間で共通理解を図りながら、協力体制や組織作りに取り組むことにより、学級の枠を越えた児童理解を深めることができた。

< 課 題 >

- ・ 「校外学習」以外の生活単元学習の単元構成、授業作りの検討。
- ・ 生活単元以外の学習形態の授業実践の蓄積。

記録の蓄積

～「資料3」参照～

< 成 果 >

- ・ 特別支援教育在籍学級ファイルの作成（学級経営案、市教委提出教育計画等）
- ・ 個別ファイルの作成（実態表、個別指導計画、評価、実践記録等）金庫保管
- ・ 引き継ぎ資料を精選し、年間の指導の流れの中に作成時期を設定した。

< 課 題 >

- ・ 6年間引き継ぐことのできるファイルを作成し、活用することで、個々の課題によりアプローチできるように努める。

その他

- ・ 「生活リズム表」の活用が有効であった。～「資料4」参照～
- ・ 校外学習では、保護者のボランティア支援の協力が得られ、指導効果をあげた。
- ・ 今後、特別支援を要する児童の指導に活かせる教材文庫を設置する予定。